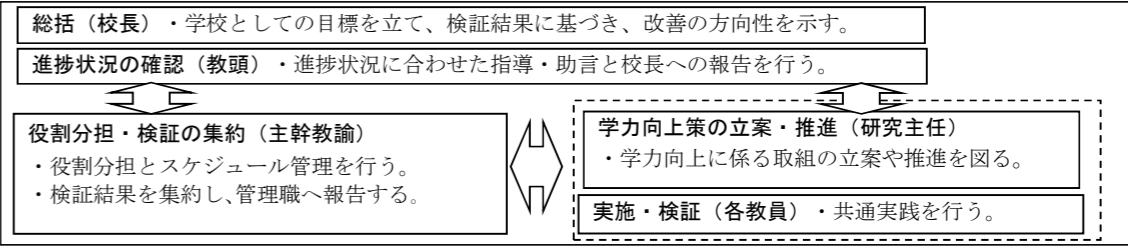


研究主題

副題



学期	児童生徒の現状・課題	原因・要因	重点的に行う取組	検証の方法と指標		結果の検証		
				児童生徒の状況	教師の指導・取組の状況			
授業で行う取組	一学期	・授業では、教師の手立てに素直に反応し、意欲的に取り組む児童の姿が認められる。また、書くことを嫌がらず、ノートにまとめやふりかえりを書くことができる。 ・条件に合っていない、語尾が適切ではないなど、問いに的確に答える力が十分ではない。また、簡単な言葉で思いを表現することも多く、豊かな表現で話したり書いたりする力を伸ばす必要がある。	・これまで書くことを重点として学校研究に取り組んできたので、書くことが当たり前になっている。しかし書く内容への指導についての共通理解が足りないと考えられる。 ・特に、国語テストの解答は語尾までこだわって採点しているが、条件付きで考えをまとめる場がなかなか設定されないと考えられる。	「『わかった』『できた』をまとめます」で、理解したことを自分の言葉でまとめる機会を確保する。 ・学校研究の重点②「子ども主体の学び合いをつくるための手立て」により、思考を深める学習を大切にすることで学習のより深い理解を図ることに取り組む。 ・学校研究の重点③「書くことの指導」の中で、まとめ・ふり返りに何をどのように書くか、学年で検討し、書く内容を共通理解して取り組む。	方法	「自分の言葉でまとめ・ふり返りを書くことができる」を確認する。（児童アンケート） 「ノートの鉄人」の認定により確認する。（学校長による認定）	授業の板書写真を掲示・公開する。	
					指標	「当てはまる」の割合80%以上 「ノートの鉄人」認定率80%以上	月3枚以上公開した割合 95%以上	
					結果			
	二学期				方法			
					指標			
					結果			
	三学期				方法			
					指標			
					結果			
授業以外で行う取組	・年間3回行っている家庭学習強化週間では、全体の目標達成が96%を超えている。しかし、強化週間以外の家庭学習の取組や課題提出には個人差や学級差が見られるのが現状である。	・個人差は、家庭の協力度にも関係している。 ・宿題の内容は学級担任に任せられる部分であること。	家庭学習の習慣化による基礎・基本の定着に取り組ませる。 ・学年で宿題の内容の規準をそろえる。 ・学年で自学の取り組み方や内容について共通理解を図り、学年集会等で指導する。	方法	家庭学習強化週間のチェックシートで確認する。	教員アンケートで取組状況を確認する。	1学期の検証	
				指標	5日間目標時間達成率 95%以上	「学年会で内容等を相談して、家庭学習に取り組ませている」の肯定的評価90%以上	2学期の検証	
				結果	1学期の結果 2学期の結果	1学期の結果 2学期の結果		